

第 56 期・2015 年度 事業計画および収支予算

(2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日)

一般社団法人 出版文化国際交流会

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町 1-2-1

Tel. 03-3291-5685 Fax. 03-3233-3645

<http://www.pace.or.jp>

2015年度事業計画 案

はじめに

本会では数年来、管理費、事業費におけるさまざまな経費節減策を実施すると共に、資金繰りの安定化のため会員の皆さまに会費の一括請求等の特別な計らいのご協力をいただき、今年度も同様のご対応をお願いしてまいりました。会員社の皆さまに心より御礼を申しあげますとともに、新年度も引き続き会員社のご理解とご協力をお願い申しあげます。

本会はお蔭さまで一昨年(2014年)の10月に創立60周年を迎えることができましたが、昨年は新しい役員体制の下で新たな歩みを踏みだしました。今後も創立以来の基本理念を尊重しつつ、会員社の皆さまのご理解と国際交流基金を始めとする関係機関・団体等のご協力をいただいで日本の出版文化の海外普及に努めたいと存じます。

2015年度事業方針について

内閣府より一般社団法人として、移行認可条件である公益目的支出計画の着実な実施が健全な財政運営とともに求められています。今後も管理部門、事業推進の両面において一層堅実な運営に努めたいと存じます。

第22回東京国際ブックフェアには公益目的支出計画の継続事業として昨年と同様、本会独自のブースをもって参加します。本会のブースでは会員社紹介の企画をさらに強めていきたいと思えます。

外務省、国際交流基金及び本会との協議により発足した「国際ブックフェア参加プロジェクト」は国際交流基金との共催事業として本年で29年目を迎えます。予算状況が厳しくなっておりますが、昨年と同程度の規模を確保したいと考えております。そのうち専門家派遣については数件となります。

また将来的な発展が期待される東南アジアの国際ブックフェアについて予備調査としての派遣を検討していきたいと存じます。

第67回フランクフルト・ブックフェア、第21回ソウル国際ブックフェアでは、単独出展社のお世話をしつつ、日本会場を構成し出版文化の交流促進を図る中心的役割を担います。特に会場構成が大きく変更されるフランクフルト・ブックフェアではその準備に万全を期すと共に、前年に引き続き出展経費に関する助成金の申請を行う予定です。

海外出版事情視察団の編成としては、10月のフランクフルト・ブックフェアを中心にヨーロッパ出版事情視察コース、およびビジネスコースの企画を実施したいと存じます。

広報活動では、会報の発行を年2回と定例化させることとし、ホームページの充実も図っていきたいと存じます。また隔年発行の*Practical Guide to Publishing in Japan*については新たな枠組みのなかで企画してみたいと考えています。『フランクフルト・ブックフェア』(手引き書)は従来、出版事情視察団参加者を中心に配布していましたが、より幅広くフランクフルト・ブックフェア参加者に配布いたします。

フランクフルト・ブックフェアへの日本の参加のあり方について検討していただく『フ

ランクフルト・ブックフェア世話人会』については、より幅広い出展関係者のご意見を伺う形で一層の情報収集に努め、出展環境の整備、出展社の増加に繋げていきたいと存じます。

1993年より導入していただいている納本制度によって生み出される特別賦課会費は本会の財政上、その役割が誠に大きく、新年度も引き続き多くの会員社のご理解・ご支援をぜひともお願い申し上げます。

2015年3月20日

一般社団法人 出版文化国際交流会
会長 竹生 修己

事業計画詳細

I. 国際ブックフェアへの参加事業

1. 出展参加

(1) 第22回東京国際ブックフェア2015

本会では実行委員会の一員として運営に関わっていますが、一般社団法人認可条件である公益目的支出計画の継続実施事業として独自のブース（10 m²）をもって参加します。前年度の実績を踏まえ、パネル、代表的図書、カタログ等による会員社紹介の企画をさらに強化する予定です。また協力団体の紹介等も試みてみたいと思います。

(2) 国際交流基金との共催事業により参加する国際ブックフェア

世界各地の国際ブックフェアで日本ブースは大変な人気を博しており、ブックフェアへの参加申請も例年以上に多数寄せられております。候補地として残っておりますのが7頁のリストですが、限られた予算で最大の成果を得られるよう、現在も参加地について協議を続けております。

出展図書はまずはブックフェア会場で来場者を魅了し、終了後は日本語学科のある大学等関係先へ寄贈され長期にわたって活用されます。中南米や中東等、日本の図書になじみのない国々に図書を届けられるこのプロジェクトは非常に有意義と好評を得ています。

またブースでの図書販売も、現地書店の協力を得て中東地域で実現していきたいと考えております。

(3) 第21回ソウル国際ブックフェア2015

今年度も国際交流基金と本会の共催ブースを設けます。好評な期間中の来場者への図書販売については引き続きトーハン、教保文庫の協力をいただき実施の予定です。

国際交流基金と本会の共催ブース以外に、単独出展、コーナー出展のお世話もいたします。

(4) 第66回フランクフルト・ブックフェア（一部国際交流基金との共催事業）

1) 会場構成の大きな変更に伴い、日本会場は4号館の1階へ移動します。

2) 従来と同様、日本インフォメーション・センター、共同展示場、周囲に単独出展社ブースの配置で日本会場を構成します。

3) 単独出展社ブースはサイズ、位置等、可能なかぎり希望に沿うべくブックフェア事務局と折衝し、出展環境の整備に努めたいと存じます。

4) 共同展示場には、国際交流基金と共同で総合的な「日本インフォメーション・センター」（16 m²）と（一社）自然科学書協会、（一社）出版梓会、（一社）大学出版部協会の協力参加による共同展示コーナーを設置する予定です。

- 5) 共同展示コーナーでは、1メートル幅のコーナー展示と商談スペースの提供もを行います。
- 6) 図書の展示にあたっては、より有益な書誌情報が提供できるような体制を整えていくこととします。具体的には、日本文学出版交流センター（通称 J-Lit）のご協力をいただき、同センターのウェブサイト”Books from Japan”上に出版3団体のすべての出展図書の英文書誌情報を掲載し、世界の出版関係者に事前周知するシステムを実施する予定です。この書誌情報は実際の展示にも有効活用させていただきます。
- 7) 今年度の東日本大震災関連図書の展示に続き、可能な限り時宜を得たテーマ展示の企画を試みたいと存じます。
- 8) 日本会場における書籍の展示・紹介にとどまらず、日本の出版文化を幅広く紹介するため、在フランクフルト日本総領事館、ケルン日本文化会館のご協力をいただく予定です。また予算の範囲で生け花を始めとする他の国際文化団体との連携を図ります。
- 9) 今年度に引き続き、情報を整理の上、単独出展社分を含めたブース借料、ブース設営費、送料の各項目を柱とした出展経費節減に関する助成金の申請を新年度も試みたいと思います。

(5) ライプチヒで開催される「世界で最も美しい本コンクール」へ出品

「第49回・造本装幀コンクール」の受賞作品を、(一社)日本書籍出版協会と共同出品いたします。本コンクールには毎年30ヶ国を超える国々から出品され、3月のライプチヒ国際ブックフェア開催時に表彰式が行われ、その年のフランクフルト・ブックフェアで全作品が特別展示されます。

2. 国際ブックフェア関連事業

(1) フランクフルト・ブックフェア世話人会

フランクフルト・ブックフェアへの日本の参加のあり方を諮問いただく「フランクフルト・ブックフェア世話人会」はより幅広い出展関係者のご意見を伺う形で一層の情報収集に努め、ブックフェア事務局との連携を密にし、出展環境の整備、出展社の増加に繋げていきたいと存じます。

(2) 海外の出版事情視察団の編成

- 1) 「フランクフルト・ブックフェアとイタリア出版事情視察コース」
- 2) 「フランクフルト・ブックフェア ビジネスコース」
- 3) その他

(3) フランクフルト・ブックフェア総裁の講演会

フランクフルト・ブックフェアのユルゲン・ボース総裁の来日を期に、本会とフランクフルト・ブックフェア事務局、日本書籍出版協会との共催で、同氏とドイツテレコ

ムの国際ビジネス開発責任者、クラウド・レンクル氏、およびヒューレット・パッカーのマーケティング&ビジネス担当、田口兼多氏の講演会を4月7日（火）日本出版クラブ会館で開催します。

II. 広報活動

1. 会報の発行

一昨年復刊した会報の発行を年2回（原則として7月と翌1月）に定例化させ、ホームページと併せて広く本会の活動をお知らせしていきます。

2. ホームページによる広報

ホームページ上で本会の活動を紹介。会員社を始め、オンライン書店、主要国際ブックフェアホームページへのリンク等の基本情報とともに、主要な国際ブックフェア開催日一覧や派遣専門家の最新報告、さらに海外出版事情視察旅行企画の案内等を行っていく予定です。

3. 『Practical Guide to Publishing in Japan』について

英文版・日本出版界の実用ガイド

従来は、A5判変型、本文61頁、隔年発行の小冊子形式でしたが、今回はその形式を含めて検討していくことにいたします。

内容は、日本出版界の概要と最近の動向、輸出入統計、東京国際ブックフェアの実情、前年度のベストセラー図書の紹介、翻訳出版権・図書の売り込みや購入の商取引につながる基本情報、翻訳出版助成機関の紹介、主要な出版関連機関、団体の住所等、外国の出版関係者に有用と思われる情報をコンパクトに紹介する予定です。

4. 『フランクフルト・ブックフェア』（手引書）

B5判、発行：80部

世界最大のブックフェアを、その歴史から最新の開催状況までコンパクトにまとめる小冊子を作成します。内容を充実させながら活用しやすく簡易製本の形にして希望会員社、視察団参加者に配布します。

III. 関連活動

1. 納本制度の継続実施

ご協力いただいていない会員出版社にはご協力依頼を改めてお願いし、既にご協力いただいている会員出版社には更に上積みのご協力を引き続きお願いいたします。

2. タンザニアへの図書寄贈に協力

タンザニアのNPO団体、在タンザニア日本国大使館ならびに日本外務省より依頼を受け、タンザニアの女子中学校に新設される図書室に図書を届けるプロジェクトに協

力をいたします。テーマに沿った選書、書店より購入、梱包し現地へ送付する作業を担当し、教科書以外の本は入手不可で見たことがないという現地の将来ある若者たちに図書、図書の持つ世界を届けたいと存じます。

2015 年度参加予定の「国際ブックフェア」

国際ブックフェア名	会期	備考
1. 第 41 回ブエノスアイレス国際ブックフェア	4.23～5.11	
2. 第 28 回テヘラン国際ブックフェア	5.6～5.16	
3. 第 21 回ソウル国際ブックフェア	6.17～21	事務局派遣
4. 第 22 回東京国際ブックフェア	7.1～4	
5. 第 26 回香港ブックフェア	7.15～21	
6. 第 20 回リマ国際ブックフェア（ペルー）	7.	
7. 第 回パナマシティ国際ブックフェア	8.	
8. 第 回サンホセ国際ブックフェア（コスタリカ）	8.	
9. 第 67 回フランクフルト・ブックフェア	10.14～18	事務局派遣
10. 第 60 回ベオグラード国際ブックフェア	10.26～11.2	
11. 第 回ザグレブ国際ブックフェア（クロアチア）	11.	
12. 第 回ブカレスト国際ブックフェア	11.	
13. 第 40 回クウェート国際ブックフェア	11.	
14. 第 17 回モスクワ国際知的図書展 non/fiction	11.25～29	
15. 第 回キト国際ブックフェア（エクアドル）	11.	
16. 第 回グアダラハラ国際ブックフェア	11.28～12.6	
17. 第 回ダッカ国際ブックフェア（バングラデシュ）	2016.1	
18. 第 26 回ドーハ国際ブックフェア（カタール）	2016.1	
19. 第 回マスカット国際ブックフェア（オマーン）	2016.2	
20. 第 33 回リヤド国際ブックフェア	2016.3	

[注]4. 第 22 回東京国際ブックフェア以外は国際交流基金との共催事業

第56期 2015年度(平成27年度)収支予算

自:平成27年4月1日 至:平成28年3月31日

一般社団法人出版文化国際交流会

(単位:円)

項目	科目	27年度収支予算案	26年度収支予算	増減
前期繰越		19,287,000	24,320,000	-5,033,000
1 事業活動収入				
入会金収入		100,000	100,000	0
会費収入	会費収入	15,620,000	16,500,000	-880,000
	特別会費収入	3,000,000	3,000,000	0
	特別賦課会費収入	6,933,000	7,300,000	-367,000
事業収入	フランクフルト・ブックフェア参加収入	19,110,000	11,000,000	8,110,000
	ソウル・ブックフェア参加収入	750,000	700,000	50,000
	国際交流基金預託金(立替分)	10,000,000	10,000,000	0
補助金等収入	受取利息	4,000	4,000	0
	雑収入	31,000	50,000	-19,000
その他	その他収入	317,000	400,000	-83,000
当期収入合計		55,865,000	49,054,000	6,811,000
前期繰越+当期収入合計		75,152,000	73,374,000	1,778,000
2 事業活動支出				
事業費支出	フランクフルト・ブックフェア参加費	20,300,000	13,000,000	7,300,000
	ソウル・ブックフェア参加費	1,900,000	600,000	1,300,000
	国際ブックフェア参加費	1,000,000	600,000	400,000
	国際交流基金預託金(立替分)	10,000,000	10,000,000	0
	目録発行費	308,000	308,000	0
	東京国際ブックフェア参加費	617,000	617,000	0
	調査費	1,120,000	925,000	195,000
管理費支出	給与手当	10,666,000	10,600,000	66,000
	福利厚生費	1,500,000	1,500,000	0
	旅費交通費	1,008,000	1,008,000	0
	通信運搬費	1,543,000	1,028,000	515,000
	印刷費	700,000	514,000	186,000
	会報発行費	206,000	206,000	0
	会議費	200,000	205,000	-5,000
	慶弔費	32,000	50,000	-18,000
	保険料	7,000	10,000	-3,000
	消耗品費	334,000	514,000	-180,000
	雑費	196,000	205,000	-9,000
不動産関係	賃借料	1,851,000	1,851,000	0
	水道光熱費	200,000	205,000	-5,000
税金関係	租税公課	75,000	80,000	-5,000
その他	その他支出	600,000	617,000	-17,000
当期支出合計		54,363,000	44,643,000	9,720,000
次期繰越額		20,789,000	28,731,000	-7,942,000

(注)1 借入金限度額 0円

(注)2 債務負担額 0円